

令和5年予算審査特別委員会
代表質問日程表

質問日	会派名	質問者	
3月16日(木) 午前	公明党	1	近藤 隆行 議員
	新風つばめ	2	小林 由明 議員
	日本共産党議員団	3	宮路 敏裕 議員

※質問方式は、一括方式です

令和5年予算審査特別委員会「代表質問表」

発言の順序	会派名 (質問者)	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
1	公明党 (近藤 隆行)	1. ふるさと 納税について	(1)クラウドファンディング型ふるさと燕応援寄附金について	<p>①これまで、燕市が実施したクラウドファンディング型ふるさと燕応援寄附金の件数とご寄附頂いた人数と寄附金の額をそれぞれお聞きします。</p> <p>②今、実施している全天候型子ども遊戯施設のクラウドファンディング型ふるさと燕応援寄附金事業は、平成31年1月に実施したアンケート調査で市内に全天候型の大規模な遊び場がないため、近隣の市町村の施設を利用していることが分かったことからクラウドファンディングの事業として取り上げたことが明記されているが、これまで実施してきた事業に関しては、どのようなプロセスを踏まえて事業として取り上げられてきたのか伺います。</p> <p>③今後、事業名目的をどのように抽出し、優先順位をつけてクラウドファンディング型ふるさと燕応援寄附金として実施していくのか決定までのプロセスを伺います。</p>
		2. 高齢者福祉について	(1)高齢者の安心安全なまちづくりについて	<p>①これまで地域で頑張ってこられた高齢者の安全安心なまちづくりについて、ここ数年に及ぶコロナ禍の中、地域住民のつながりがこれまでにまして希薄になっている。</p> <p>一人暮らしを含めた高齢者のみの世帯が急激に増え、孤立死や老々介護等が本市においても問題となっています。</p> <p>高齢社会においては、地域におけるお互いの安否確認、孤立化、閉じこもり予防等、大きな課題であります。</p> <p>そこで、居場所、交流拠点、見守り体制、生活支援体制、外出できない高齢者への支援についてどのように取り組まれていくのか、又、高齢者に対する基本的な考え方を含めて伺います。</p> <p>②議員活動をさせていただく中で、高齢者宅を訪問した際、高齢者からいただく声としてやはり圧倒的に多いのは運転免許返納後の移動手段についてであります。</p> <p>一人でも多くの市民が利便性を感じられるような公共交通網のありかたとしての可能性と限界を伺います。</p>

発言の順序	会派名 (質問者)	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
2	新風 つばめ (小林 由明)	1.「子育てするなら燕市で」と評価される施策の展開について	(1)全天候型子ども遊戯施設について	<p>全天候型子ども遊戯施設建設については、その必要性も含めて議会の中でも何度も議論し、予算を増額してでも市内外に誇れるより使い勝手のいい充実した施設を作るように議会としても後押しし、用地の拡張や機能の充実が図られたより良い施設の実現を当局とともに目指してきた。</p> <p>それらを踏まえて建設費については当初見込んでいた金額よりも多い15億円となっていたが、来年度予算では、その1.6倍の24億円と大幅に増額された予算計上されている。</p> <p>増額にあたっての理由として、ワークショップでの意見を取り入れていくことは大賛成であり、使う人の意見を多く反映し、より使い勝手のいい施設にしてもらいたいと考えるが、一方で青天井ではない限りある予算の中でどう様々な事業との兼ね合いの中で確保するかは非常に重要である。</p> <p>①今回の24億円という予算の増額理由として、ワークショップでの意見の反映や事業者の特筆すべき提案や建築資材の高騰ということとしているが、詳細が見えない中では、青天井に予算を積みましている状態に感じるが、それぞれ、ワークショップの意見を参考にしたことで増えた金額、特筆すべき提案を取り入れたことで増えた金額、そして、資材高騰で増えた金額の内訳をそれぞれ伺う。</p> <p>②今回の予算では令和6年度までを工事期間として見込んでいるが、この24億円からさらに増額していくということはないのか。</p> <p>③これら施設の建設は現行のふるさと納税制度が維持されていくことを念頭に作る費用については捻出できる目処がある程度見ているようには考えるが、一方で、ふるさと納税制度はいつまでも続くという保証はない。</p> <p>今後、この全天候型子ども遊戯施設が稼働する際のランニングコストについてはおおよそどれくらいを考えており、その費用捻出についてはどう考えているのか伺う。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言 の 順序	会派名 (質問者)	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
2	新風 つばめ (小林 由明)	1.「子育てす るなら燕市 で」と評価 される施策 の展開につ いて	(2)切れ目ない 支援の充実 について	<p>来年度予算では、妊娠から出産、子育て、就学そして就職と市として支援し続ける環境づくりの実現に向けて様々な制度を新設している。</p> <p>特に妊娠から出産、子育てまで一貫した子育て世帯に寄り添った切れ目のない支援を行うということで様々な事業の新設、拡充が予定されている。</p> <p>この切れ目のない支援において大事なものは、制度同士がしっかりとつながり支援し続ける体制を整えることだが、一方で、様々な制度の申請において、様々な部署を跨いでいくことで非常に使い勝手が良い制度になってしまう。</p> <p>そういうことがないようにということで、今回、こども政策部を新設したことも把握している。</p> <p>①切れ目ない支援として様々な政策が考えうる中で、母子手帳アプリの導入や妊産婦のタクシークーポンや産後ケアなど今回新設や拡充することを予算化するにあたり、施策の中身について妊産婦からの聞き取りや相談事項として要望が多かったなど、どのような過程や調査研究を踏まえて予算化するに至ったか伺う。</p> <p>②様々な制度を新設する一方で、現状ではそれぞれ申請が必要となり、手続きも煩雑化すると考えられる。</p> <p>今回、こども政策部を創設して申請や相談をワンストップで対応できるようにしたように、申請については、今回新設する母子手帳アプリを活用するなどして一度登録すればその都度細かな申請を出さなくてもそれぞれのサービスを受けることができる一括申請のような形ができないか伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言 の 順序	会派名 (質問者)	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
2	新風 つばめ (小林 由明)	2. アフター コロナを見 据えた政策 について	(1) アフター コロナに対応 したフェニッ クス11につい て	<p>これまで燕市では、新型コロナウイルス感染症が国内に蔓延してきた当初から企業や家庭における様々な難局を乗り越えていくために、不死鳥に例えてフェニックス 11 という形で様々な施策にどの自治体よりも早く、また手厚く積極的に取り組んできた。</p> <p>この度、国として3月13日には屋内・屋外を問わず、マスクの着用は個人の判断に委ねる方針となり、5月にはこれまで2類相当から5類に移行される予定となっている。一方で、少しずつ新型コロナの脅威が減ってきている今でもお店での飲食や対面イベントの回数や参加者数などはコロナ前の状況には戻りきれておらず、コロナ前の当たり前とはまだまだ程遠い現状である。</p> <p>GoTo イートが1月に、GoTo トラベルが3月に終了し、燕市のクーポンも2月で終わりました。また、いわゆる無利子無担保というゼロゼロ融資の返済が始まってきました。更に追い打ちをかけるように、電気料の値上げ、物価高騰の煽りを受け、飲食店経営を中心に地方経済は、厳しい状況にあり、コロナ終息イコール支援終了という状況にならないかと心配している事業所の声が聞こえております。</p> <p>令和5年度の予算には、コロナ対策という言葉がございませんが、フェニックス 11、フェニックス 11 アゲインと、続けてきた新型コロナ対策の総仕上げとして、フェニックス 11 アフターという考えが必要であるという考えから以下2点伺う。</p> <p>①いよいよ令和5年度はウィズコロナからアフターコロナに移行していく中で、これまで様々な困難に耐えた燕市民が不死鳥の如く立ち上がりまちとして盛り上がっていくために、今こそフェニックス 11 といった目に見える対策が必要と感じるが、今年度はこれまでのようなフェニックス 11 の取り組みは行わないのか伺う。</p> <p>②コロナ禍で特に減ったのが、対面かつ大勢で行うイベントや行事である。コロナ前からは大幅に回数も参加人数も減っている中で、今回、アフターコロナへの移行にあたり、そういったイベントや行事などの開催について市としてはどのような方針で行なっていくのか。</p> <p>また、様々なお祭りやイベントなどをコロナ前のように行うためには、これまで以上の支援が必要と感じるが、市としてどのように支援していくか、伺う。</p>

発言の順序	会派名 (質問者)	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
3	日本共産党議員団 (宮路敏裕)	1. 職員人事計画について	(1)職員人事計画について	①予算算定上の職員数、正職員611人、会計年度任用職員869人で、会計年度任用職員が前年比86人増と大幅である要因。 正職員と会計年度任用職員の比率が新年度は41%対59%、令和元年では予算ベースで48.5%対51.5%であった。 毎年正職員の比率が下がっているが、職務の知識や経験・技能など継承して職員を育てていく上での支障、市民サービスの向上のための支障がないのか人事計画上的どのように考えているのか。
		2. 職員の健康維持対応について	(1)カウンセリング業務委託について	①職員の健康維持・メンタルヘルス対策として、カウンセリング実施などの予算であるが、新年度は前年と同額としているが、どのようなカウンセリングの体制を考えているのか。 また、職員の健康維持のための課題解決などの考えについて。
		3. 指定管理者制度について	(1)指定管理者制度について	①指定管理48施設において、新型コロナ禍及び光熱費の高騰など様々な対応を余儀なくされてきた。民間のノウハウを活かした運営のもと、市民サービスの向上を図り適切に管理していくことが求められる中、大きな影響があったのではないかと。 結果として施設の従業員の労働条件や処遇にも影響を与えてないよう、また、市民サービスにも影響を及ぼすことがないように、指定管理者との協議の必要があったと思うが、新年度も必要な対応等の考えがあるのか。
		4. 社会教育施設について	(1)社会教育施設について	①生涯学習や市民スポーツによる健康増進に資する施設の使用状況が、新型コロナ禍での影響による利用者数の落ち込みや使用料の改定の影響も取りざたされている中、新年度予算では公民館分館など一部施設で使用料収入増と計上されているが、教育委員会に登録する社会教育関係団体数や入館者数、公民館やスポーツ施設の使用料収入について、新型コロナ以前との比較でどれほど回復を見込むのか。